

国語 (古文)

早稲田大学 法学部 1/4

<総括>

出題数

現代文2題・古文1題・漢文1題

試験時間

90分

例年通り、古文の学力を広範囲にわたって問う出題であった。

<本文分析>

大問番号	(一)
出典 (作者)	清少納言 堀本『枕草子』
頻出度合 ・的中等	稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約630字。昨年より約540字減。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(一)	随筆	問一	マーク	やや易	語句の空欄補充 (直前の内容から希望の「まほしけれ」を選ぶ)。
		問二	マーク	やや易	文の解釈。
		問三	マーク	標準	語句の空欄補充 (非難していることを読み取る)。
		問四	マーク	やや易	文の解釈 (ここでの「なにがし」の語義に注意)。
		問五	マーク	標準	内容説明 (ここでの「あたらしく」の語義に注意)。
		問六	マーク	やや易	人物把握 (傍線部の直後に注目)。
		問七	マーク	やや易	内容合致 (合致しないものを選ぶ)。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

古文の読解に必要な単語・文法・古文常識・和歌などをマスターし、文脈を正しく把握する力を養成しておくこと。

＜総括＞	出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間	90分
昨年度同様、1つの問題文が提示され、字数が増加した。 昨年度同様、5題構成であり、設問形式もマーク形式の出題が4題、記述形式の問題が1題出題された。なお、設問箇所は、昨年度に同じく、すべて白文で出題された。 昨年度は漢字が新字体であったが、今年度は旧字体で出題された。 昨年度は中国の作品が出題されたが、今年度は日本の作品が出題された。 昨年度出題された返り点の問題、読み方（書き下し文）の問題は、今年度は出題されなかった。 昨年度出題された本文の内容を問う問題は、今年度は出題されなかった。				

＜本文分析＞

大問番号	(二)			
出典 (作者)	信太英『淞北夜譚』			
頻出度合 ・的中等	稀。			
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 383字。昨年より44字増。			
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)			

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
(二)	随筆	問八	記述	やや難	抜き出しの問題。「丑蠱」を「爲妄誕」（妄誕と爲す）が常識に基づく判断であることをふまえて、その判断の根拠となる語句や表現を探す。
		問九	マーク	難	語の意味の問題。詩の「楽府」（がふ）という形式を示す用法の知識と把握が問われている。
		問十	マーク	標準	意味の問題。重要語「頗」（すこぶる）、受身形「爲A所B」（AのBする所と爲る）を捉える。「詞林」とそれに対応する「騷壇」の意味を、文脈と文意をふまえて考える。
		問十一	マーク	やや難	意味の問題。七言詩の句の中の切れ目「4字＋3字」に留意する。慣用句「欲～」（～んと欲す）、比較形「□於～」（～よりも□なり）を捉える。
		問十二	マーク	やや難	意味の問題。否定の連用「不～無…」（～ずんば…無し）を捉える。「徹」「靈」の意味を、直前の句とのつながりをふまえて判断する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

漢文は独立した形式として出題される可能性が高いので、漢文の基本構造をしっかりと理解し、重要単語や基本句形、故事成語、漢詩の学習を怠らず、確実な読解力を養成すること。また、白文に対する十分な準備をしておくこと。書き下し文や現代語訳に合わせて白文に返り点を付ける問題もよく出題されるので、訓練を積むこと。文学史、思想史も学んでおきたい。本文は、旧字体で出題されることもあるので、準備をしておくこと。

＜総括＞	出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間	90分
例年通り180字の記述問題が出題された。現代の社会や文化が直面する問題を扱う文章が出題される傾向や、空欄補充問題と傍線部説明の選択肢問題を中心にした設問形態も例年通りである。昨年度同様、脱落文補充問題が出題された。（三）は、選択肢が紛らわしく正解を決めづらい設問が散見された。				

＜本文分析＞

大問番号	(三)	(四)
出典 (作者)	真木悠介『時間の比較社会学』（岩波書店1981年刊）第五章「近代社会の時間意識―（Ⅱ）時間の物象化」二「時計化された生―時間の物神化」の一節。	宇野邦一『非有機的生』（講談社選書メチエ2023年刊）第七章「反〈生政治学〉的考察」の一節。
頻出度合 ・的中等	入試にしばしば出題される著者の文章である。	入試にしばしば出題される著者の文章である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・ <u>変化なし</u> ・やや増加・増加) 約3200字。昨年と変わらない。	分量 (減少・やや減少・ <u>変化なし</u> ・やや増加・増加) 約4200字。昨年と変わらない。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ <u>変化なし</u> ・やや難化・難化)	難易 (易化・ <u>やや易化</u> ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(三)	社会論	問十三	記述	標準	漢字の書き取り。
		問十四	マーク	標準	脱落文補充。「近代化」の「人間類型的な代償」に相当する内容が直前に示されたハに入る。
		問十五	マーク	標準	傍線部理由説明。傍線部直前(第三段落)の内容に合致するものを選ぶ。
		問十六	マーク	やや難	空欄補充。Xは第二段落、Yは第三段落にそれぞれ着目する。第六段落末の一文も手がかりになる。ただし、空欄直後の「・」の意味が不明確である。
		問十七	マーク	標準	傍線部理由説明。第七段落から傍線部を含む段落の内容に基づいて、傍線部の「近代化」の「完成」とはどういうことかを考える。
		問十八	マーク	難	空欄補充。ロとハが非常に紛らわしい。
		問十九	マーク	標準	傍線部内容説明。「社会的時間の支配」がテレビジョンによってどのように変わったのかを、傍線部前後の内容に沿って考える。ニが紛らわしい。
		問二十	マーク	やや難	趣旨判定。本文全体の趣旨を踏まえて考える。
(四)	哲学思想	問二十一	マーク	標準	傍線部内容説明。傍線部前後の文脈から、「シニシズム」が〈例外状態による精神の荒廃に抗おうとする例外者を、たんに客体とみなすこと〉を指すという点をおさえて考える。
		問二十二	マーク	標準	傍線部内容説明。傍線部前後の内容と〈主権の「例外性」と人間の例外状態は同型的ではない〉という傍線部そのものの内容をふまえたものを選ぶ。
		問二十三	マーク	やや難	傍線部内容説明。傍線部を含む段落とその次の段落の内容に沿ったものを選ぶ。
		問二十四	マーク	標準	傍線部内容説明。傍線部を含む一文とその次の一文に着目する。
		問二十五	記述	難	傍線部を説明する記述問題(180字)。「本文中の歴史的事例を踏まえつつ」、傍線部直前の内容を手がかりに「生政治学」についての著者の主張をまとめる。リード文にも注意が必要である。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・難しめの評論や随筆(特に現代の文化や社会の問題を扱った文章)の問題練習を通じて、本文全体の構造や趣旨を見きわめる力を養うこと。
- ・法学部の過去問に取り組んで傾向になじんでおくこと。
- ・100～180字の多様な記述問題(本文要約・傍線部説明・作文)に取り組んでおくこと。設問の条件に応じて柔軟に対処しうるだけの、高度な記述力が要求されている。